伊賀一宮 敢國神社　会報第１号　令和５年　１月　１日

あえのさと便り

発行　伊賀一宮 敢國神社
〒518-0003
伊賀市一之宮８７７
TEL:0595-23-3061
https://www.aekuni.jp/

謹賀新年

年が改まり何かしら清新な気分になりめでたい空気が漂う

各家庭では、お屠蘇を飲み雑煮を食べ新年を祝う。また近郊の社寺に初詣に出かけ、今年一年の無病息災など思い思いの願をかける。

これまで府中地区を除く伊賀の人であっても敢國神社を知る人は少なかったため「伊賀一宮 敢國神社」を多くの人に知ってもらいたく、三回ほどバスを貸きり、敢國神社および県下最大の御墓山古墳等を見学してもらいました。

昨年は全国的に敢國神社を知ってもらいたく、令和五年ＮＨＫの大河ドラマ「どうする家康」の件で昨年五月ＮＨＫ津放送局を訪問しました。これに伴い昨年十月二十六日と十一月三日、ＮＨＫが当社を訪れ、本殿等を撮影されました。

令和五年度は大型ドラマ「どうする家康」にから めて伊賀上野観光協会と協力して「伊賀忍者」＝「敢國神社」＝「伊賀の安全」を発信していきたいと思います。

最後に御崇敬の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたしますとともに、皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

発刊によせて

伊賀一宮 敢國神社
宮司　太郎館　学

謹んで新年のお慶び申し上げ、皇室・国家の安泰と御崇敬の各位の弥栄を心よりお祈り申し上げます。

この度当社の社報「あえのさと便り」を責任役員の皆様のご理解・ご協力を得て発刊することと相なりました。「あえ」とは、阿部（安部）姓の原音であり、敢國神社の地域の古くは阿拝郡（あえのこおり）と称し当社御祭神である大彦命率いる一族がたくさん住んでいて「アベ」姓を名乗るようになりました。

大彦命は、現在伊賀に住む人たちの総祖人でもあり、この度伊賀地域の発祥地である「あえのさと便り」を発刊いたしました。

さて、昨年にはコロナ鎮静に至るのではないかと思っておりましたが、なかなか完全に収束することは難しいことなのでしょうか。近頃言われているウィズコロナという意味も解りかけてきました。

本年も当社は、祭祀の厳修め、伊賀の国の守り神、心の拠り所としてご崇敬の皆様をお迎えすべく、全力をつくして参りますので、ご崇敬の皆様のさらなるご高配を賜りますようお願い申し上げます。

大神様のご加護のもと、本年が皆様にとりまして、幸多き佳き年となりますよう「鎮守の杜」よりご祈念申し上げまして発刊にあたりご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

総代会長　中尾　功一

新年明けましておめでとうございます。

御崇敬の皆様には輝かしい新春をご家族お揃いお迎えいただいたこと心よりお慶び申し上げます。

平素より当社の護持運営等に対しまして格別のご理解とご協力をいただき、併せて厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は二昨年に引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るわれ昨年十月十三日、三重県知事は第八派突入を宣言されました。ここしばらくはコロナと上手に付合っていかなければなりません。気を緩めることなく感染予防対策を行っていかなければなりません。

責任役員挨拶

新年明けましておめでとうございます。初詣は、元日に神社仏閣に詣で一年の幸せを祈るため、除夜の鐘を聞き終えて、すぐに出かける人もおります。

令和五年度は、神輿庫の改築工事祝詞殿板葺改修工事などの修復整備事業がはじまります。役員一同心を引き締め事業の遂行に努めたいと感じています。

皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新嘗祭・黒党祭及びお茶会神事

昨年十一月二十三日、新嘗祭・黒党祭及びお茶会神事が執り行われました。祭典は太郎館宮司のもと執り行われ、また古式にのっとり、豊浦流石州氏のお手前によって献茶されました。また、雨天のため「くろんど」の演武は拝殿で行われ、参詣者は実戦さながらの演武に見入っていました。

新嘗祭の「新」は新穀（初穂）「嘗」は御馳走を意味し、天照大御神はじめすべての神様に新穀をお供えして神祭の恵みによって、新穀を得たことを感謝するお祭りです。

黒党祭

敢國神社に伝わる黒党祭は、伊賀服部一族の私的な祭りとして行われていました。祭礼に参加できるのは服部一族に限られ、全員が黒装束に身を固め、血盟の杯を行う服部一族の厳粛なお祭りでした。

十二月初卯の日になると、柘植川沿いの花園川原に仮の宮殿を設けて神をお遷しし、仮設の祭場で二夜三日間、盛大な酒宴が行われました。祭礼費用は千石にもなり、戦国時代初期には多額で苦労に当たるため「苦労当祭」とよばれていましたが、天正伊賀の乱で戦った伊賀の士豪たちは、敢國の神の前で一族の結集をはかり戦意を高める重要な祭りでした。

敢國神社の文化財

当神社における文化財（指定文化財）を紹介します。

三十六歌仙扁額　県指定有形文化財

（絵画）平成十七年三月十七日指定

・三十六歌仙の歌仙画三枚を一組とし、計十二面の扁額に納めたもの。

・金地著色画で同時期の三十六歌仙図の特徴をよく反映している。

・和歌の色紙は近衛信基（一五六五～一六一四　公家・書画に優れ近衛流を確立）の筆と認められる。

・製作時期が明確で三十六図欠損なく残されていることは貴重である。

参考

『公室年譜略』慶長十四（一六〇九）条「三十六歌仙ノ額三十六枚倶ニ近衛信基公筆画ハ山徳筆ヲ神献玉フ」

『宗国史（そうこくし）』本譜大通公「寛永十三年六月建伊賀一宮護摩堂」※寛永十三年（一六三六）

『宗国史』祀典録（きてんろく）「伊賀一之宮十二葉三十六歌仙」※寛永十三年六月に藤堂高次（大通公）によって護摩堂が建てられ、合わせて三十六歌仙が十二枚の額に改修されたと推定される。

獅子神楽　県指定無形民族文化財

昭和二十九年四月一日指定

起源ははっきりしていないが、伊賀領主となった藤堂高虎は、上野城の鬼門鎮守の守護神として、敢国神社への崇敬が厚く、獅子神楽を神幸式の列次に加えて以来、伝承されている。享保年間、藩の許しを受けて伊賀国内の家々を巡演し、領内安穏、家内安全、五穀豊穣等を祝祷し、明治四十二（一九〇九）年以降中絶するが、一之宮地区の人々を中心に結成された獅子神楽保存会が技法を守り、毎年一月三日の舞初祭、四月十七日の春祭り、十二月五日の例祭で奉納される。

例祭では二頭の獅子により、熙舞、四五日の例祭で奉納される。

例祭では二頭の獅子により、熙舞、四方神楽、五段神楽、剣の舞、鼻高、小竹の舞、荒舞、背つぎ舞の演目）が奉納される。

伊賀地域に伝わる、獅子神楽は、敢國神社に習ったと伝承のあるものが多く、現在伊賀市一円で盛んに復興されている獅子神楽の原型といわれている。

石造灯篭　市指定有形文化財

敢國神社本殿の正面左右に四基石の灯篭が建てられているが、その内の一基が市有形文化財に指定されている。

花崗岩製で、総高232cm 基礎・竿・火袋・笠・請花・宝珠がそろう面取りした四角形の大の竿に「慶長十五年一宮奉寄進藤堂采女正正月吉祥日」とあり、後に藤堂藩上野城代職となった藤堂采女元則（当時二十八歳）により寄進されたものである。

特に慶長三（一五九八）年敢國神社大湯釜、同十六（一六一一）年に同社梵鐘を鋳造し寄進するなど寺社復興事業に欠く事の出来ない大型金属什器の制作を進めていることが特徴的である。

湯釜

市指定有形文化財（工芸品）

昭和三十三年十一月二十二日指定

敢國神社には三脚がつく鋳物製の釜が二つ保管されている。大きい方は慶長三（一五九八）年、小さい方には慶長十八（一六一三）年と記されている。また、大きい方には、桃山期から江戸初期において伊賀国の寺社復興に大きな役割を果たした小天狗清蔵により寄進されたことが記されている。

小天狗清蔵

伊賀国伊賀郡山出（伊賀市山出）で生まれる。近江国飯道寺の岩本院で修験道を修した。文禄二年（一五九三）から寛永九年（一六三二）までのほぼ四十年の間に伊賀国はもとより山城・大和・紀伊国の四カ国二十社寺の創建や採光に寄与した事跡が確認される。

伊賀の国概観

「伊賀の国」は、北は高旗山・笹ケ丘へと連なる山、東は、布引山地、南は室生火山群、西は大和高原で四方を標高約２００ｍから７００ｍの山々が取り囲んでいます。近江・山城・大和・伊勢にまわりを囲まれている東西約３０ｋｍ、南北約３５ｋｍの土地であります。

伊勢平野と上野盆地の境をなす布引山系に源を持つ水の流れは、東から柘植川及び服部川、南から木津川が伊賀国を潤し、北西部において合流し、島ヶ原から京都を経て淀川となって大阪湾に注がれています。

伊賀盆地の北部には、かつては琵琶湖の発祥地として大山田湖が約四百万年前に形づくられ、北に移動し現在の琵琶湖が形成しはじめました。古琵琶湖層には貝、象、鹿の化石や亜炭層などが見つかっています。

私たちの郷土「府中」は、この柘植川と服部川との間の台地を中心に耕地を持つ農村地帯として開けてきました。

歴史的には、伊賀は東海道十五カ国の最初の国、すなわち都に隣接する国であったため早くから開けていました。県下最大の御墓山古墳をはじめとする大小五百余の古墳、夏見廃寺、鳳凰寺など白鳳期の寺院址、整然と区画された古代条理制遺構などがそれを明らかにしています。

一方、東大寺は建築用材伐採のため杣山から荘園へと発展させ、伊賀の大部分を領土としてしまいました。古来より大和の国と境を接している地域であり、交通の要衝として栄え、弥生式土器や住居跡は各地に散在し、大規模な古墳が多く分布しています。四世紀末の石山古墳（才良）や全長１８０ｍを越える三重県内最大級の前方後円墳である御墓山古墳（佐那具町・五世紀前半）、キラ土古墳（佐那具町・円徳院）、勘定塚古墳（外山）など数多く発見されています。

銅鐸出土地の千歳地区には、鏡や多数の玉類が出土した旦那山古墳、六鈴鏡を出土した浅間山古墳など服部川以北に古墳後期の小円墳が多数あります。

また、外山地区から野間にかけて後期小円墳が八十余り分布し、山神地区の寄建（よったて）神社古墳から仿製三角縁神二獣鏡が出土しています。

壬申の乱のときには、大海人皇子は吉野から軍をひきいて、隠（なばり・名張）から伊賀郡家（ぐんけ・上野市神戸）をとおり、積殖（つみえ・柘植）から伊勢に抜けています。奈良時代に新居駅（にいのみのうまや）が設けられ、交通上も伊賀は重要な地点でした。

伊賀国は、孝霊天皇元年に定められたもので、大化の改新（六四五年）によって伊勢の国に属することになりましたが、天武天皇九（六八〇）年、再び伊勢の国の一部を割いて伊賀国四郡（阿拝・山田・伊賀・名張）が定められました。

延喜式での格は下国。四方を山に囲まれているため「隠し国」とも呼ばれていました。

伊賀国と称するのは「伊賀津媛」が所領していたからであり、郡名を四郡に分けて後は国名としました。

和銅四（七一一）年に山城国岡田駅が設置され、加茂～笠置～大川原～島川原～西山を経て新居郷の新居駅に入り三田から柘植に入る道が開けた。

『倭名類聚抄』（承平年間　九三一～九三八）には、阿拝郡には柘植郷、川合郷、印代郷、服部郷、三田郷、新居郷の六郷が、伊賀郷には阿保郷、阿我郷、神戸郷、猪田郷、大内郷、長田郷の六郷が、山田郡には木代郷、川原郷、竹原郷の三郷、そして名張郷には周知郷、名張郷、夏見郷の三郷がそれぞれ記載されています。

延喜式内社は、阿拝郡では、大社は敢國神社（一之宮）小社の小宮神社（服部町）・波多岐神社（土橋）・須知荒木神社（荒木）等があり、敢國神社は一の宮、小宮神社は二の宮、波多岐神社は三の宮と呼ばれています。

どうする家康紀行（仮）

ＮＨＫ放映予定・服部半蔵

番組概要

当番組は令和五年ＮＨＫ大河ドラマ「どうする家康」の関連番組として制作しています。

主人公の徳川家康をはじめ、物語に登場する人物にゆかりのある場所や物品、又は物語の舞台となった地を情緒豊かに紹介する番組です。（時間９０秒）

放送予定日時

※大河ドラマ本放送は
日曜日の夜８時

・ＮＨＫ総合：日曜　夜８時４分３０秒ごろ～
・ＮＨＫＢＳプレミアム：日曜夜６時４３分３０秒ごろ～
・ＮＨＫＢＳ４Ｋ：日曜６時４３分３０秒ごろ～
・（再放送）ＮＨＫ総合：翌週土曜昼１時４８分３０秒ごろ～
・ＮＨＫワールドプレミアム：翌週土曜昼１時４８分３０秒ごろ～

※ドラマの内容による放送日の変更があります

令和五年　主な祭典行事

一月　一日	歳旦祭
一月　二日	初日供祭
一月　三日	獅子神楽舞初祭
一月一一日	崇敬者初祈願祭
二月　三日	節分祈願祭
二月一一日	紀元祭
二月一七日	祈年祭
三月　八日	植樹奉告祭
四月一七日	春季大祭
四月一七日	獅子神楽舞上祭
五月　三日	御田植祭
六月二五日	むすび社例祭
六月三〇日	大祓式
八月　一日	茅の輪神事
九月二一日	神社関係功労物故者慰霊祭
十月　七日	講社大祭
十一月二三日	新嘗祭
十二月　一日	黒党祭（くろんとまつり）
十二月　四日	浅間社例祭
十二月　五日	神幸式
十二月二三日	おんまつり（例祭）
十二月三一日	天長祭
	除夜祭
	大祓式
毎月　一日	月次祭
毎月　望日	弁天社満月祭

拝殿から鳥居を望む

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。寒さもいよいよ本格的になってきて、外の冷気が家の中まで迫ってくるような気がします。

敢國神社会報第一号を発刊することが出来ました。試行錯誤の末ですが、情報発信することを目標に今後も続けていきたいと思います。